
令和6年度 最終報告 令和7年度 活動計画

千葉市 海まつり協議会

年次活動計画

- ・ はじめて千葉ブランドが全国区となるきっかけとなった千葉市地域文化財「御浜下り」を通じて、千葉市の歴史的な奥行きを再認識してもらい「うみ千葉」の文化を市民全体で継承していきたい

■ 2026年「千葉開府900年」➡ シビックプライドの確立の年に



0年目

2022	2023	2024	2025	開府900年 2026
始動	啓発	普及	醸成	シビックプライド確立
海まつり協設立	多主体連携	オール千葉市	オール千葉市民	行事開催

■ 運営側の変革

男性主体から、女性や子供主体へ



浴衣で神輿を曳こう

■ 新住民へのアクセス

千葉中央駅西口マンション前を会場
に文化を可視化



「御浜下り」パネル解説



「エア-さし石」



「さし石」の塗り絵



願い事を書いて笹に



神輿乗り入れ



笹は、御浜下りへ

■ 担い手の恒常的育成

親子向けの次世代教育活動



海まち学校



普及啓蒙用
紙ウチワを
配布

1年目

2022	2023	2024	2025	開府900年 2026
始動	啓発	普及	醸成	シビックプライド確立
海まつり協設立	多主体連携	オール千葉市	オール千葉市民	行事開催

■新住民へのアクセス

多主体連携による広域のプロモーションイベント

①千葉中央駅西口エリア



御浜宵宮



ミッケ夏祭り・盆踊り



さし石さんが大会

②千葉ポートパークエリア



さんばしまつり



巫女舞



餅撒き



御浜下り



配布うちわ

説明文
千葉市地域文化財 寒川神社 御浜下り
千葉に町ができて間もない頃のこと。攻め込んできた敵から町を守るうと船乗り達が立ち上がりました。空から舞い降りた神の助けによって奇跡の勝利。以来、千葉の町は発展し続けてきました。このお祭りはその出来事を語り継ぐために行われてきたものです。2026年、この町は生誕900年を迎えます。

■担い手の恒常的育成

御浜下りの起源に関わる伝承を伝える紙芝居の制作と上演



- ・12月9日の寒川小学校創立150周年記念「地域開放デー」で上演
- ・その後、先生方により寒川小学校の4年生の全クラスで上演



御浜下りプロモーションビデオの制作



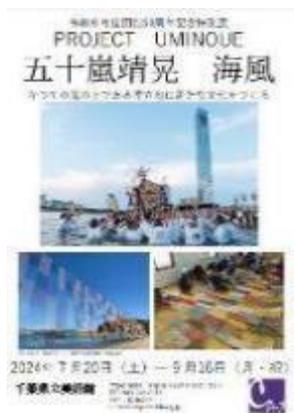
本年度

2022	2023	2024	2025	開府900年 2026
始動	啓発	普及	醸成	シビックプライド確立
海まつり協設立	多主体連携	オール千葉市	オール千葉市民	行事開催

面的なインパクトをもつ主体との連携により、オール千葉市を射程にいれた普及啓蒙を図る

【計画】

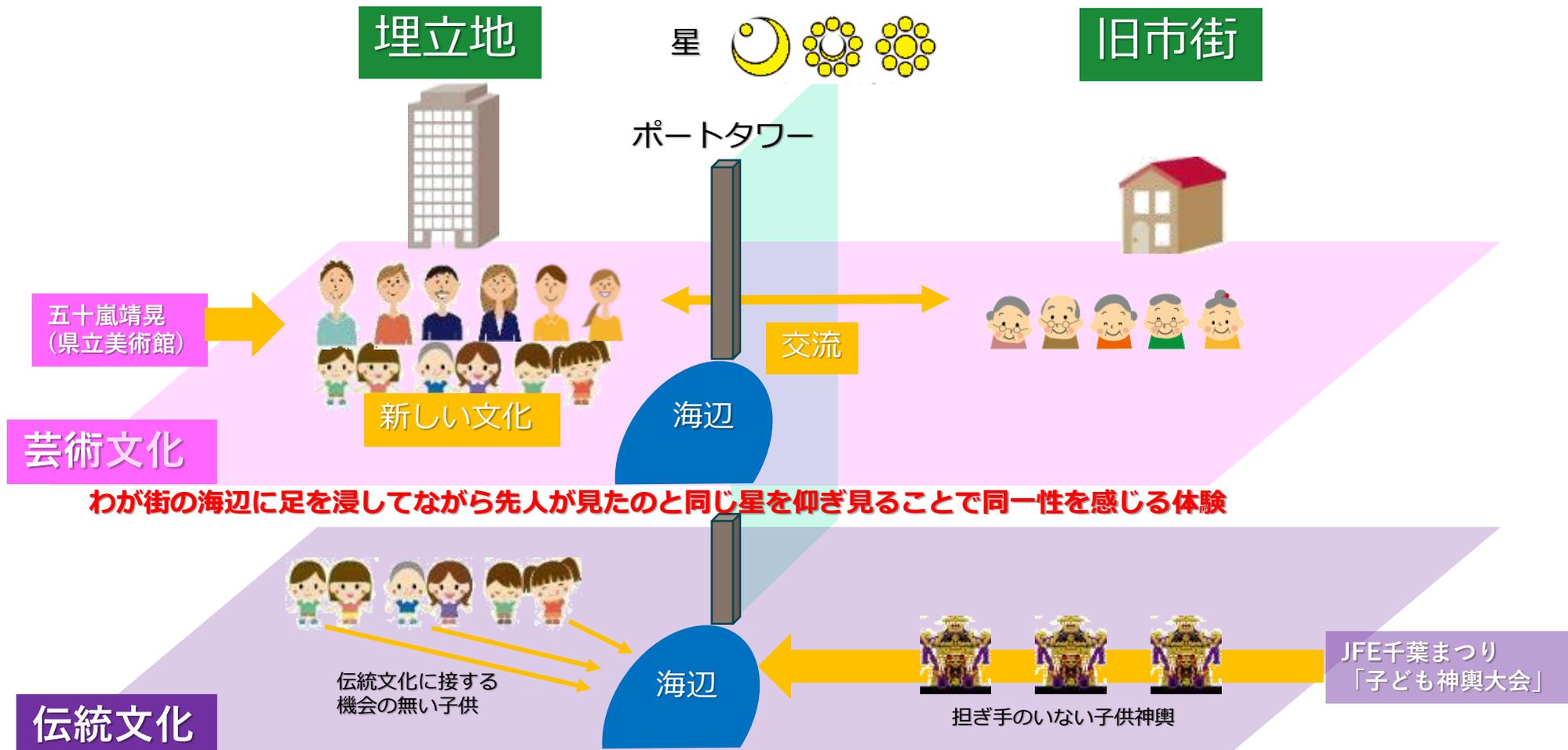
県立美術館開館50周年
「五十嵐靖晃展」



JFE千葉まつり
「子ども神輿大会」



千葉市地域文化財 御浜下り



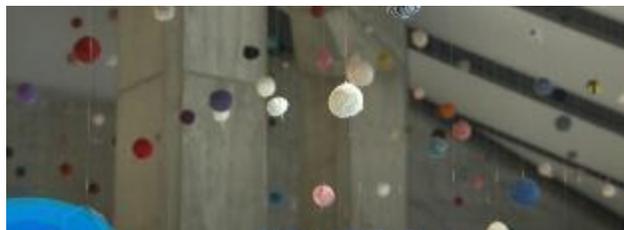
わが街の海辺に足を浸しながら先人が見たのと同じ星を仰ぎ見ることで同一性を感じる体験

地域の大人に見守られながら、生まれ育った街の海辺に足を浸して神輿を担ぐ誇らしい体験を

【実績】



浜の清掃、鳥居型「そらあみ」アート設営



千葉の「月星」をイメージした3500個の「糸の星」



地域協働による「そらあみ」の制作

五十嵐靖晃 海風 (県美)



寒川地域の子供神輿 5基

「結城舟」に代わる「わたぶね」による先導

こども御浜下り

生まれ育った街の海辺に足を浸しながら地域全体で楽しむ経験

さんばしまつり

こども御浜下り

主催：千葉市海まつり協議会

協力：寒川神社氏子青年会、新宿小PTA、結城ボッチャクラブ、寒川小PTA、寒川小おやじの会、NP0法人Drops、千葉県立美術館
海風クルー、千葉市観光協会、千葉みなと活性化協議会、千葉みなと地区連合会、ケーズハーバー、k'sアメフトチーム

■ 9/7 (土) 事前準備
約45名 (草刈り、掃除、鳥居)

■ 9/8 (日) 本番
参加したこども 約110名



- 収穫① 大勢の子供が肩で神輿をかっいで、笑顔で海に入って喜んでた
- 収穫② 年配者が「危険だ」と一蹴しがちだが、理解ある若い親が大勢いた
- 収穫③ 普段は祭礼に関わらない、多くの地域の方がボランティアで協力してくれた

広報について



夏休み前に小中学校（6校）に配布



夏休み明けに小中学校（6校）に配布



連携先「さんばしまつり」ちらし



連携先「さんばしまつり」の地域新聞の広告 8月9日、8月23日



8月28日 NHK 首都圏ネットワーク おでかけしゅと犬くん コーナー

【気付き】

- こども御浜下りの事前清掃に約45名の青年男性が参加したが、皆、他の地域活動／ボランティア活動をしている人達だった。
(地域活動をするのは決まった人。してない人にやってもらうには一人ずつ一対一で時間をかけて関係を築いてしかないのでは)
- 伝統文化の切り口では地域に参加しない人も、芸術文化の切り口なら興味を持つ人が増えるかもしれないと考えていた。
結局、県美側で呼びかけた協働製作に応じて集まったのは、ほぼ年配の女性だった。若い世代の反応は無かった。
- 美浜区幸町の埋め立て第一世代の男性からは歓迎コメントあり。
「これまでは、子供に、これが故郷だと胸を張って示せるものがなく、心苦しい思いをしていた。一緒に文化を作っていけるのはありがたい。」
- こども御浜下り本番には、約110組の親子連れが参加した。
次のようなやりとりの報告があった。
子供：「パパもズボン濡れちゃったね」
パパ：「そうだね。でも楽しかったよ」

【所感】

- 子育てで時間や経済的な余裕のない若い世代に直接、地域への参画を呼び掛けるより、子供にとっていい魅力的な行事と、子供のためを思う親への啓蒙を地道に継続的に実施することが、結局は長いように見えて一番の近道なのではないか。

【未実施分】

■ プロモーションビデオの続編

- ・ 前回制作の内容
御浜下りを復活させたときは嬉しかったけど、あと何年続けられるのか、人もお金も減る中で、とても焦っている。寒川が守ってきたけど、千葉全体の宝なんだから、千葉市民全体で受け継いでいきたい。
- ・ 今回制作予定の内容
来年1月末に納品予定

来年度

2022	2023	2024	2025	開府900年 2026
始動	啓発	普及	醸成	シビックプライド確立
海まつり協設立	多主体連携	オール千葉市	オール千葉市民	行事開催

すべての千葉市民に、千葉の歴史的な奥行きを認識してもらえるような体感を。
かねてより目標に掲げてきた往古の「千葉の祭礼」の復活に取り組む。

【計画】

千葉開府の翌年から、千葉氏と千葉町の興隆を願ってはじめられた「千葉郷あげての大祭」は約900年にわたって千葉の町のアイデンティティーであり、そのメインイベントが「御浜下り」であった。明治になって県庁がおかれ、昭和戦後に埋め立てによって工場と団地ができ、千数百軒であった旧千葉町が百万都市の千葉市へと成長する過程で、その文化は、市民に顧みられることなく寒川地区だけで細々と守られてきた。その様子は口碑でのみ伝えられてきたので、市民への普及啓蒙すら困難であったが、平成4年に福島県相馬妙見歓喜寺の非公開の絵巻を目にした郷土博物館宮原学芸員によって、そこに往時の「千葉の祭礼」、特に、舟形の山車「結城舟」の姿が鮮明に描かれていることが確認された。再来年の開府900年は、往古の「千葉の祭礼」の様子が判明して初の周年記念行事である。失われた900年前のアイデンティティーに千葉市民が思いを馳せられる機会は、これをおいて他にない。



この3年の取り組みで感じたこと：

一度、失われた文化の重要性は、説いて理解はしてもらえても、それを市民一人一人に自分事として捉えてもらうには別次元の壁を乗り越える必要がある。一人一人の体感を市の人口分、繰り返す他にないのでは。

参考：YOSAKOIソーラン

①山車曳き文化の醸成

- ・佐倉囃子保存会に寒川への出稽古についての協力要請（実施済）
- ・寒川地区の各自治会に募って佐倉囃子練習のコアとなるメンバーを募集（実施済）
- ・千葉みなと地区連等で説明しマンションや自治会単位での参加を募る（実施済）
- ・佐倉囃子保存会の協力のもと、月1～2回程度の練習会を開催（4月以降～）
- ・自主練習可能なレベルとなった段階で囃子楽器等を購入（自己負担）（7月）
- ・御浜下りを含む祭礼等で、佐倉囃子保存会と一緒に披露（8月）
当初は、寒川神社所有の欄干付き木製台車に木組みの屋根を取り付けて山車代わりとする
- ・以上と並行して、結城舟を含む「千葉の祭礼」の復元について検討を行う。

②こども御浜下りや歴史教室の継続による次世代育成

- ・中央区全域の小学校へのチラシ配布（夏休み前と、開催前と、2回）
- ・こども御浜下り開催（9月）。参加者を山車曳きへの誘導する施策実施
- ・興味を持った参加者へ、SNSを通じて、紙芝居や地誌動画等のインフォメーションを定期的に提供。

③結城舟の復元

- ・千葉市全世帯に趣意と計画を示すチラシの折り込みを行う（予算的に中央区と美浜区）
-